

図2 紙のバラエティ展示で用いる「印刷指図書」の例

- 展示しうるマテリアルのバラエティ
1. すかし
 2. 裏糊
 3. 目打
 4. 紙
 5. 印刷
 6. 刷色
- これらには当該切手だけでなく、指図書などのエビデンスも含まれます。(図2)

—リコンストラクション
 これの展示は、出品者の知識ないし研究を反映するものです。(図3)

—ステーションナリーの取扱い
 料額印面が同図案切手と同じクリシェが使われたもの、および料額印面の切抜使用が認められた場合は切手と同じく展示対象になります。

—収入印紙および郵便使用目的の偽造切手の取扱い
 印紙の郵便使用は原則展示対象になりますが、郵便切手の印紙使用は対象外です。偽造切手は郵便使用目的のものが展示対象になり、しかるに使用例が重要です。

■伝統郵趣とみなされる作品

(いわゆるカタログに沿った形の作品以外で)以下の作品が伝統郵趣とみなされましょう。

1. 切手製成過程を見せる
2. 糊・目打・刷色の変化・エラー・穿孔など特定分野の研究
3. 手紙文化、終末レター、新聞ラベル等
4. フェイクや偽造切手、リプリント、書留ラベル等
5. リコンストラクションや反欠点の進化

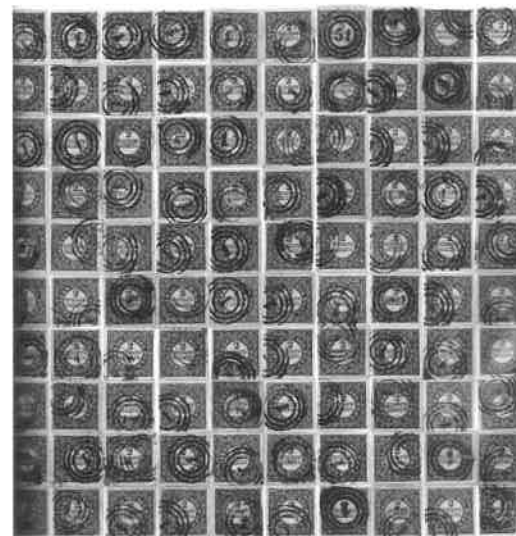


図3 リコンストラクションの例

5. オン・カバーは重要、(ローカルレター、小包送票やリターン・レシート等の)郵便フォームやデリバリー・シートなど
6. 混貼使用例

—伝統郵趣作品における使用例の展示
 郵便印・レート・ルートを含め、切手について、郵便史部門よりも完全かつ適切に構成するマテリアルを選ぶべきです。

6. 複数の国にまたがる「オムニバス」イッシューやある地域での複数のファースト・イッシュー
7. その他:「切手の日」、「クリスマス・メール」などの、フェアや郵趣イベント

■SREV Article 4: 伝統郵趣の審査基準

伝統郵趣部門出品作品の審査は次の4項目においてなされます。

Treatment (20) and Philatelic Importance	
(10) of the Exhibit	30
Philatelic and Related Knowledge, Personal Study and Research	35
Condition(10) and Rarity(20)	30
Presentation	5
Total	100

ここからは、審査員見習い志願者へのガイダンスとも言うべき内容で、配布チェックリストに沿っての解説がなされました。冒頭に強調されたのは、「この審査基準は、異なった領域の作品において、いかに審査を行い採点するかに踏み込んだ指針であり、伝統郵趣委員会は、実際の審査をサポートするために審査基準を発展させてきた」です。

— Treatment / トリートメント

出品者はタイトル頁において、作品の目的、対象の範囲、展示プランや構成につき、語らなくてはなりません。

審査員は5~10分という短い時間で審査しますので、これをアシストすべく作品各頁での「ヘッドライン(タイトル)」がたいへん重要になります。ヘッドラインに沿っての適切なマテリアル展示がまさに「作品ストーリー・ライン」であり、揃ってこそ「良いバランス」になるのです。ここで会

場壁に掲示のグルーム氏(Malcolm Groom 豪)のタスマニア・ピクトリアルシリーズ(1899-1912)デ・ラ・ルー版の作品が紹介され、ダイ・プルーフなど切手製成過程からエンディングまでのストーリーがナチュラルに示されている旨が説明されました。(図4)

また、いわゆる「展示マテリアルの重複は避けよ」が強調されました。デンマーク最初のシリーズでの実例を挙げて、

1. 4Sk切手のカバー展示は貴重なFDCに始まり、1枚貼、2枚貼、3枚貼、4枚貼と進めていくものの、宛先・レート・郵便印等の郵便史データのみでの多数展示はマテリアルの重複とみなされる。
2. 4Skと2Skとの組合せ貼カバーは郵便史的に興味深く、希少性もあり、たいへん魅力的だが、郵便史データだけの多数展示は、やはりマテリアルの重複とみなされる。
3. オン・カバーであれ、切手の伝統郵趣の見地での取扱いが肝心、切手の印刷・刷色・版などの説明が郵便史データとともに必要。伝統郵趣は切手についての全てを扱うものである。(図5)

— Importance / 重要性
 重要性とは、以下に定義されます。

1. 作品の対象領域の収集の困難さ
2. 対象の重要マテリアルが含まれている
3. サブジェクトの対象国内での相対的重要度
4. 対象国のワールドワイドでの重要度

審査においては、上記1と2で(10点満点の)5~6点、3と4で4~5点が与えられます。